

## ロシア共産党史についての覚え書き (1921. 12. 1)

ロシア共産党史についての覚え書き\*

エヌ・イ・ブハーリンへの短信

同志ブハーリン!

きょう、中央委員会が君に委託したテーマと関連して、私の覚え書をお送りする。このテーマについていろいろと考え、つぎのようなプランをたててみた。

(α) 論争、意見のひらき、分裂の**対象**の一覧表。

(β) 分裂の時期と統一の時期との交代。

(γ) メンシェヴィキが多数を占めた時期と、ボリシェヴィキが多数を占めた時期の交代 (図表であらわすことはできないだろうか?)

ご意見を一報されたい。

十二月一日

レーニン

これを、君の論文の**構想**として取りあげるわけにいかないだろうか? それとも、なにかこの種のを?

---

意見のひらきの対象の一覧表 (年代順)

1903年10月。組織問題、規約第一条。

1904年。「ゼムストヴォ・カンパニア」。

1905年5月。革命、ストライキ闘争、武装蜂起にたいする態度。

1905年8月。国会ボイコットか、参加か?

1905年10月。

1905年12月。蜂起。

1906年1月—3月。国会ボイコットか、参加か?

1906年4月—5月。第一次国会にたいする態度。

1906年7月。武装蜂起にたいする態度。

1906年9月。パルチザン闘争にたいする態度。

1907年1月—2月。第二国会の選挙。左翼ブロックか、カデットとのブロックか?

1907年4月。第二国会。

1909—10年。解党主義。

1911年。中央委員会総会。

統一か、分裂か?

1912年。分裂。(解党主義)。

1913年。「ストライキ熱」 うんぬん。

1913年。第三国会にたいする態度。

1914年。帝国主義戦争にたいする態度。

1917年2月—3月。2月革命にたいする態度。

1917年5月。連立内閣。

1917年7月。第一回ソヴェト大会。  
1917年9月。コルニーロフ陰謀と民主主義会議。  
1917年10月。ソヴェト権力。  
テロル。  
ブレスト講和。  
陰謀と国内戦。

1918年。国内戦。メンシェヴィキとの関係。

1919年。 // //

1920年。 // //

1921年。 // //

ボリシェヴィキとメンシェヴィキとの闘争（数的優劣の交代）。

1903年。大会 20 : 24 44 票\*\*（一つの党）。

1905年。三つの大会。Za (Zirka = ほぼ) (二つの党\*\*\*）。

1906年。ストックホルム大会。正確に（票数） 一つの党。

1907年。ロンドン大会。正確に（票数\*\*\*\*） 一つの党。

（国会の議員団）

1911 - 12年。労働者の<sup>きよきん</sup>醜金（解党主義についての<sup>\*\*\*\*\*</sup>論集から）（一つの党と二つの党）。

1917年6月。全ロシア・ソヴェト大会。

1917年11月。150(?)万と900万※ 憲法制定議会の選挙

第36巻『ロシア共産党史についての覚え書』P656~659

1921年12月1日に執筆

## 事項訳注

\*

ロシア共産党（ボ）史にかんするレーニンの覚え書は、労働者統一戦線戦術の問題の審議に関連して書かれた。まずはじめに、この問題は1921年12月1日の党中央委員会で審議された。中央委員会は、第二、第二半およびアムステルダム・インタナショナルにはいていた労働者と共同行動をとる方針に賛成した。テーゼ『労働者統一戦線について、第二、第二半およびアムステルダム・インタナショナルに加入している労働者、ならびにアナールコーサンディカリスト組織を支持している労働者にたいする態度について』の特別の項（第19項）が、この問題の解明にあてられた。このテーゼはコミンテルン執行委員会で採択され、ロシア共産党（ボ）第11回全国協議会（1921年12月19 - 22日）もこれに賛成した。テーゼは、コミンテルン執行委員会第一回拡大総会（2月21日 - 3月4日）でさらにくわしく審議され採択されて、コミンテルン第四回大会で確認された。

前記のテーゼ第19項については、『ソ同盟共産党決議決定集』第一部、1954年、585 - 586ページを参照。

\*\*

ロシア社会民主労働党第二回大会におけるボリシェヴィキとメンシェヴィキの票数の関係を念頭においたもの。ボリシェヴィキの代議員20名は24票をもち、メンシェヴィキにくわわっていた『ラボーチェエ・デーロ』の代議員2名およびブンドの5名がはなれたの

ち、メンシェヴィキは20票をもっていた。合計44票であった。

\*\*\*

レーニンが「二つの大会——二つの党」と言っているのは、1905年4月—5月にロンドンでひらかれたボリシェヴィキのロシア社会民主労働党第三回大会と、それと同時にジュネーヴでひらかれたメンシェヴィキの協議会とをさす。

\*\*\*\*

レーニンはここで、第四回（ストックホルム「統一」）党大会と第五回（ロンドン）党大会における票数の配分状態を念頭においている。この時期には、ボリシェヴィキも、メンシェヴィキも、形式上は単一の党内にあって、一つの中央委員会、定期的にひらかれる諸会議をもっていた。

第四回党大会では、議決権をもった代議員112名のうち、ボリシェヴィキは46票、メンシェヴィキは62票をもち、その他はどの分派にも属しない社会民主黨員がもっていた。メンシェヴィキがわずかではあるが優勢であったため、大会の諸決議は多くの問題についてメンシェヴィキ的なものとなった。この大会にかんする党への『アピール』のなかで、レーニンはこう書いている。「誤っているとわれわれの考える、大会のこれらの決定にたいして、われわれは思想的にたたかわねばならないし、またたたかうであろう。だがそれとともにわれわれは、全党にたいして、われわれがあらゆる分裂に反対であることを宣言する。われわれは大会の諸決定に服従することに賛成する。……このような服従、このような思想闘争を、われわれはすべてのわが同意見者に呼びかける」（本全集、第10巻、300ページを参照）。この大会では党の形式上の合同だけがおこなわれた。実質上は、ボリシェヴィキも、メンシェヴィキも、自分自身の見解を保持し、自分自身の独自の組織をもっていた。

第五回大会には、議決権および評議権をもつ336名の代議員が参加した。そのうち、ボリシェヴィキ——105名、メンシェヴィキ——97名、ブンド派——57名、ポーランド社会民主主義者——44名、ラトヴィア社会民主主義者——29名、と分派に属しないもの——4名であった。ボリシェヴィキはポーランド人とラトヴィア人を味方につけ、大会で強固な多数を占めた。すべての原則的な問題について、ボリシェヴィキ的な決議を採択した。大会では、ボリシェヴィキ5名、メンシェヴィキ4名、ポーランド社会民主（主義者2名—第12巻の事項注）黨員1名、ラトヴィア社会民主黨員1名からなる中央委員会が大会で選出された。中央委員候補にえられたのは、ボリシェヴィキ10名、メンシェヴィキ7名、ポーランド社会民主黨員3名、ラトヴィア社会民主黨員2名であった。

大会は党の日和見主義的部分であるメンシェヴィキにたいするボリシェヴィキの大勝利をもって終わった。ロシア社会民主労働党第五回党大会については、レーニンの論文『ブルジョア政党にたいする態度』（第12巻、504～526ページ）を参照。

\*\*\*\*

レーニンがここで念頭においている論集『マルクス主義と解党主義』（1914年刊）のなかには、さまざまな目的のためにおこなわれた**労働者醵金**の数字があげてある。これらの

醸金は、労働者の多数がボリシェヴィキのまわりに結束していたことを明白に証明している。さまざまな工場と産業部門のストライキ労働者や、弾圧犠牲者にたいする救援寄付金、その他労働運動のさまざまな目的にたいする醸金を、ボリシェヴィキ国会議員団を通じておこなわれたものと、解党派国会議員団を通じておこなわれたものに分けてみると、1913年9月から1914年6月6日までつぎのようになっていた（ボリシェヴィキ新聞と解党派新聞の報告による）。ボリシェヴィキ国会議員団を通じて——1万2891ルーブリ24コペイカ（労働者グループの数——1295）、解党派国会議員団を通じて——6114ルーブル87コペイカ（労働者グループの数——215）。しかも、非労働者からの醸金総額のうち、ボリシェヴィキの受けつけたものは6%にすぎず、解党派のそれは46%に達した。労働者出版物にたいする労働者醸金のグループ数はつぎのとおりであった（1914年5月まで）。ボリシェヴィキ新聞（『プラウダ』、『ラポーチー・プーチ』）にたいして——労働者グループ6000（端数きりすて）、解党派新聞（『ルーチ』）にたいして——わずかに1500（本全集、第20巻。411~416ページを参照）。

※

「150万と900万」という数字は、1917年11月の憲法制定議会選挙にさいして、メンシェヴィキとボリシェヴィキに投ぜられた票数の相互関係をしめす。レーニンが論文『憲法制定議会の選挙とプロレタリアートの独裁』（本全集、第30巻、260ページ）のなかで、これらの数字をもっとくわしくあげている。